

在外教育施設での勤務 を経験して

常総市立 水海道中学校
教諭 中山 幸一

ドイツという国



○正式名称 ドイツ連邦共和国
(Bundesrepublik Deutschland)

○16の連邦州からなる国。

○ドイツはナチス時代の反省から中央集権を嫌っている。

○教育行政が地方分権にある。

○州や自治体によって、カリキュラムや授業時間数など異なる教育スタイルを持つことができる。



ハンブルクについて (HAMBURG)



- ・自由ハンザ都市ハンブルク州（市）
- ・北海に注ぐエルベ川の河口から約110km遡上した位置にある。
- ・総面積755.2km²（東京都の約3分の1）
- ・人口約178万人（人口約340万人のベルリンに次ぐドイツ第二の都市）



HAMBURG



HAMBURG



ハンブルグ日本人学校

(Japanische Schule in Hamburg e.V.)



- ・1981年創立。
- ・幼稚部（年少）から中学部まで**12学年**ある。
- ・幼稚部は21名、小学部は69名、中学部は16名、**総計は106名**である。各学年1クラスの小規模校である。（2013年現在）
- ・職員は18名、うち派遣教員は11名、現地採用日本人職員が4名、現地職員が3名である。
- ・補習授業校も併設されている。また、年に1度ブレーメンの補習授業校との研修会がある。
- ・週2時間ドイツ語の授業が必須であるなど、ドイツの法律に基づいた教育課程の編成も行われる。

ハンブルグ日本人学校

(Japanische Schule in Hamburg e.V.)

勤務の実際

◇日々の授業・学校行事について

日本も海外も同じ

- ・小規模校の強み（個に応じた指導・きめ細やかな指導など）を活かす。
- ・地域の伝統文化や人材を活用する。
- ・日々教材研究を行う
→1単位時間に一手間・一工夫
- ・職員相互の授業研究。
- ・生徒の成長につながる学校行事の企画や運営

日本の教育現場とちがうところは…

勤務の実際

◇日々の授業・学校行事について

日本人学校独特のところ

- ・ドイツの私立学校という立場
→ドイツ語の授業は週2時間（必須）
- ・現地校との交流→コーディネイト
- ・異校種や専門外教科を担当することも。
→特に技能教科 ※原籍校との連携
- ・現地の日本企業と連携した学習の実施。
- ・個別に学習支援をしてあげたい。
- ・学校行事で自己肯定感を味わわせたい。
→通学バス・治安の関係で放課後は使えない。長期休暇も使えない。

特色ある教育活動

～交流学习～

現地校と

←補習校と

→本校幼稚園と

特色ある教育活動

～日本の伝統文化を大切に～

←和太鼓演奏

↑ もちつき大会

←書き初め大会

特色ある教育活動

～その他にも～

夏季学校（バルト海）

ENGLISH SPEECH CHALLENGE

日本人会ソフトボール大会への参加

勤務の実際

◇進路指導（中3、小6）

- ・ほとんどの生徒が中学校卒業時に日本に帰る。
→9月末から出願が始まる。
→12月あたりから「受験のための一時帰国」が始まる。
- ・個に応じた進路計画の作成 **綿密な情報収集**
→常に3者面談ができる準備を。
- ・本人より保護者の方が動いてしまうことも。
→進路実現に向け、主体的な取り組みができるよう支援できるかがとても大切。

勤務の実際

◇保護者との関わり

- ・教育への関心はとても高い。行事出席率は100%。
- ・シビアな教師への評価も
→「高い学費を払って通わせているのに...」
- ・自分も保護者の一人であるという自覚。

学力の向上
体力の向上

日本に帰って適応できるように指導して欲しい。

高い要求

学校行事の充実

- ・日本の伝統文化を
- ・ドイツならではの体験を
- ・保護者も参加させて欲しい

教師に対する意見
進路実現

ドイツの教育制度の特色

○三分岐型教育システム（全国共通）

小学校は4年生まで

ギムナジウム(Gymnasium)

日本でいう中高一貫教育の学校。「アビトゥア」と呼ばれる大学進学資格を得て卒業する。※ドイツは「大学受験」がない。

リアルシューレ(Realschule)

日本の高校1年までの学校。商業に関する実務教科を学び、職業体験が早い段階からカリキュラムに取り入れられている。

ハウプトシューレ(Hauptschule)

中学3年が終わると卒業し、職人として弟子入りしたり、職業学校へ進学したりする。リアルシューレへの編入も可能。

個人の成績表が判断基準となる

日本とドイツの教育現場の違い

だけの

教師の意識の
違いも

◆学校は勉強をする場所

朝の会、帰りの会がない。

清掃活動がない

ほとんどの学校は午前中で終わり。

- ・午後は自分の趣味や教養を高める時間。
→好きな勉強・スポーツ・芸術など。

部活動はない。

地域型スポーツクラブが非常に
充実している。

日本の教育現場の問題と比較して

学校は勉強するだけの場所

生活指導

- ・基本的な生活習慣の定着（しつけ）は**家庭の役割**という考え方が徹底している。

不登校

- ・心理的な原因→医師や心理療法士の診断を受け、不登校の生徒のための施設に通う。
- ・家庭的な原因→親には「就学させる義務」が定められ、理由なく子どもが不登校を続けると、親は法的に罰せられることもある。
- ・登校できなければ、落第もしくは転校。

中1ギャップ

- ・むしろ「中だるみ」の時期。

社会科の教員として見聞を広める。



発達しているドイツの
交通網を利用して



歴史の舞台を訪ねる

ベルリン



ポツダム



ワイマール



アウシュビッツ

3年間の勤務中、心がけていたこと

チームハンブルグ（職員の和の大切さ）

- ・日本各地から集まってくる先生方との交流
 - それぞれの経験・考え方・個性をもっている。
 - それぞれに主張しあうだけでなく、吸収しあう姿勢が大切
 - 互いが何をしているのかを明るく言い合える雰囲気作り
- ・全校体制での進路指導
- ・現地の職員を大切にしなければならない。

前後裁断（今、目の前の子にベストを尽くすこと）

- ・いつ帰国してしまうかわからない子ども達
- ・教員自身も3年間
 - 授業も行事も「次は（来年は）ない」と考えて臨む。
- ・創意工夫...今の環境で、今あるもので

3年間の勤務中、心がけていたこと

保護者（地域社会）の思いを大切に

- ・常に目の前にいる保護者
 - 教育に対する関心が高い、要求が高い
- ・子どもに一生懸命向き合うことが大切。
 - 最大限応援してくれる。

社会科教員として

- ・ハンブルグを教材化する
 - 小学5年生の社会科見学の実施
 - 社会科副読本を作成する。
- ・茨城県の児童生徒のために
 - 見聞を広め、授業等を通して還元していく。
 - 今回の経験で得たネットワークを活用する。